

グルノーブル美容専門学
令和7年度 専門課程

令和7年度 専門課程 シラバス

科目名	関係法規・制度	担当者	黒沢	課程名	美容専門課程	学科名	美容科
		単位	1	学年	2	分類	必修
		(時間)	30	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
授業の概要	美容師に必要な美容師法、に関連する様々な法規について修得させる						
学習目的	美容師や美容所に係る関係法規を学び、法令を守った美容の業を行うことを学ぶ						
学習目標	美容師国家試験の合格は必須であり、美容師に不可欠な美容師法の理解と修得を目標とする						
授 業 計 画							
回	主題	授業内容					
第1回	社会生活における法の役割	法とは何か、規範について学ぶ					
第2回	法の形式	日本の法令体系、憲法・条約・法律・命令・自治法規について					
第3回	衛生法規	衛生法規の意義と分類、生活衛生法規					
第4回	美容師法と付属法令	美容師法・美容師法施行令・厚生労働省令・美容師法施行条例・美容師法施行規則等について					
第5回	衛生行政の意義と歴史	衛生行政の意義、行政とは何か、衛生行政の歴史					
第6回	衛生行政の分類と生活衛生行政の内容	衛生行政の分類とその中の生活衛生行政					
第7回	衛生行政を担う機関	厚生労働省、都道府県及び市町村、保健所のそれぞれの役割					
第8回	美容師法用語の定義	美容の定義、美容師の定義、美容所の定義					
第9回	美容師に関する規定	養成施設、試験、免許、登録、業務停止、免許取消、再免許、管理美容師等について					
第10回	美容所に関する規定	美容所の開設、開設者が講ずべき衛生措置、美容所以外での業務等について					
第11回	立入検査と環境衛生監視員	美容師法第14条、美容師法第28条					
第12回	違反者に対する行政処分	違反者に対しての行政処分と不利益処分の手続き、違法または不当な処分等についての審査請求					
第13回	罰則	美容師法の罰則					
第14回	関連法規	美容業の運営に関する法律					
第15回	関連法規	美容業の衛生に関する法律					
教科書	関係法規・制度	日本理容美容教育センター					
参考書							
評価方法	試験成績、平常の成績、出席状況等を総合して得点化し評価基準を基に判断する。						
評価基準	評価基準は、次の通りとする。A:90～100点 B:80～89点 C:70～79点 D:60～69点 E:追 再試験合格者 F:59以下 放棄:0点						

令和7年度 専門課程 シラバス

科目名	衛生管理	担当者	大田	課程名	美容専門課程	学科名	美容科
		単位	3	学年	1、2	分類	必修
		(時間)	90	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
授業の概要	2年間で前半は衛生の基本的な考え方を主に指導し、後半は感染症や消毒法等美容師としての基礎知識を重点的に学ぶ。						
学習目的	美容師の業務についてから衛生について必要な知識を学び、実務に応用できるようにする。						
学習目標	美容師国庫試験の合格は必須であり、また衛生の知識を習得し、実務に生かす。						
授 業 計 画							
回	主題	授業内容					
第1回	公衆衛生	公衆衛生の意義と課題また歴史について学び、美容師と公衆衛生との関係性を学んでいく。					
第2回	保健	保健所と美容業の関係から、我が国の保健の仕組みや行政、保健の種類等について学ぶ。					
第3回	環境衛生	環境衛生の目的、意義、活動等を学び、空気環境、衣服・住居の衛生、上・下水道、廃棄物、衛生害虫、環境保全等をそれぞれ学ぶ。					
第4回	感染症総論	感染症に係る法律や感染症の分類、病原微生物について。					
第5回	感染症の予防	人体の感受性や発病までの経緯、免疫と予防接種、発生の要因、予防の3原則について。					
第6回	感染症の各論	主な感染症と感染経路について詳しく学び、それぞれの感染症に対する具体的な対策について。					
第7回	消毒法総論	消毒の原理や異議を学び、美容の業務との関係(法の規定や責任等)をふまえ、適用上の注意について学ぶ。					
第8回	消毒法各論(理学的消毒法)	紫外線消毒、煮沸消毒、蒸気消毒等について。					
第9回	消毒法各論(化学的消毒法)	アルコール類、次亜塩素酸ナトリウム(塩素系)、界面活性剤、グルコン酸クロルヘキシジン等の各消毒法について。					
第10回	すぐれた消毒法	すぐれた消毒法の条件や注意事項等。					
第11回	各種消毒法	消毒薬や器具の扱い、希釈液の濃度について学び、消毒薬の希釈法を学ぶ。					
第12回	美容所の消毒の実際	美容所における消毒法の原則や消毒設備、用具類の消毒法、手指の消毒について。					
第13回	美容所の清潔法の実際	洗剤や清掃、汚物箱、ハエヤカなどの駆除について。					
第14回	美容所における衛生管理要領 1	目的、施設及び設備、管理、衛生的取扱い等の実践法を学ぶ。					
第15回	美容所における衛生管理要領 2	消毒、自主的管理体制の実践法を学ぶ。					
教科書	衛生管理 日本理容美容教育センター						
参考書							
評価方法	試験成績、平常成績、出席状況等を総合して得点化し、評価基準を基に判断する。						
評価基準	評価基準は、次の通りとする。A:90～100点 B:80～89点 C:70～79点 D:60～69点 E:追 再試験合格者 F:59以下 放棄:0点						

令和7年度 専門課程 シラバス

科目名	保健	担当者	大田	課程名	美容専門課程	学科名	美容科
		単位	3	学年	1、2	分類	必修
		(時間)	90	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
授業の概要	人体の構造や機能について頭頸部を中心に学んだ後、皮膚とその付属器官について詳細を学ぶ。						
学習目的	美容技術と保健との関連性について学ぶ。						
学習目標	美容師国家試験の取得は必須であり、美容師に必要な解剖学、生理学等の基礎知識をつける。						
授 業 計 画							
回	主題	授業内容					
第1回	美容保健と美容師	人体各部の名称、頭部・顔部・頸部の体表解剖学					
第2回	骨格器系	骨の種類と構造や骨の連結等学び、骨格器系とのはたらきについて学ぶ。					
第3回	筋系	筋の種類と特徴及び表情筋と表情運動。主な骨格筋とその働き					
第4回	神経系	神経系の成り立ち。中枢神経と末梢神経					
第5回	感覚器系	視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚、皮膚感覚のそれぞれについて					
第6回	血液・循環器系	血液循環の仕組みと循環経路及び、心臓と血管、リンパ管器系のはたらき					
第7回	呼吸器系	気道、肺の仕組みとガス交換、呼吸運動					
第8回	消化器系	消化管の仕組みとはたらき、消化と物質代謝					
第9回	皮膚の構造	皮膚の表面や断面、表皮・真皮・皮下組織等					
第10回	皮膚付属器官	毛、脂腺(皮脂腺)、汗腺、爪					
第11回	皮膚の循環器系	皮膚の血管、リンパ管					
第12回	皮膚の神経系	皮膚の神経					
第13回	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	対外保護、体温調節、知覚作用と皮膚反射、分泌排泄、呼吸、吸収、貯蔵、免疫・解毒・排泄、再生等の各作用について					
第14回	皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚と全身・精神・栄養・嗜好品・体内病変等との関係、ホルモンとの関係、皮膚・毛・爪の手入れ等					
第15回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	皮膚疾患の原因と種類、各皮膚疾患の詳細					
教科書	理容・美容保健1,2 日本理容美容教育センター						
参考書							
評価方法	試験成績、平常成績、出席状況等を総合して得点化して評価基準を基に判断する。						
評価基準	評価基準は、次の通りとする。A:90～100点 B:80～89点 C:70～79点 D:60～69点 E:追 再試験合格者 F:59以下 放棄:0点						

令和7年度 専門課程 シラバス

科目名	化粧品化学	担当者	新井	課程名	美容専門課程	学科名	美容科
		単位	1年(3) 2年(2)	学年	1、2	分類	必修
		(時間)	1年(90) 2年(60)	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
授業の概要	化粧品の品質の特性や規則などを学び、取り扱いと安全性をよく理解し、様々な基礎高商品などの構造と色材、使用方法を学ぶ。						
学習目的	美容師の業務についてから高商品について必要な知識を、学び実務に応用できるようにする。						
学習目標	美容師国家試験の取得は必須であり、化粧品化学の知識を習得し、実務に活かす。						
授 業 計 画							
回	主題	授業内容					
第1回目～第2回目	化粧品概論①②	化粧品化学の社会的意義と品質特性 化粧品の規制					
第3回目～第4回目	化粧品概論③④	化粧品の安全性と取り扱い上の注意 化粧品と安全性					
第5回目～第6回目	化粧品用原料①②	化粧品の対象となる人体各部の性状 水性原料、油性原料					
第7回目～第8回目	化粧品用原料③④	界面活性剤、高分子化合物 色材、香料					
第9回目～第10回目	化粧品用原料⑤ 基礎化粧品①	その他の配分成分、ネイル・マツエク用材料 皮膚清掃用化粧品、化粧品					
第11回目～第12回目	基礎化粧品② メイクアップ用化粧品①	クリーム・乳液、その他の基礎化粧品 メイクアップ化粧品の種類と剤形					
第13回目～第14回目	メイクアップ用化粧品② 頭皮・毛髪用化粧品①	ポイントメイクアップ化粧品 シャンプー剤、スタイリング剤					
第15回目～第16回目	頭皮・毛髪用化粧品②③	パーマ剤 ヘアカラー剤					
第17回目～第18回目	頭皮・毛髪用化粧品④ 芳香製品と特殊化粧品①	育毛剤 芳香製品、特殊化粧品					
第19回目～第20回目	付録①②	付録1～7 付録8～13					
第21回目～第22回目	付録③ 国家試験対策①	付録14～20 国家試験合格に向けた練習問題①②					
第23回目～第24回目	国家試験対策②③	国家試験合格に向けた練習問題③④ 国家試験合格に向けた練習問題⑤⑥					
第25回目～第26回目	国家試験対策④⑤	国家試験合格に向けた練習問題⑦⑧ 国家試験合格に向けた練習問題⑨⑩					
第27回目～第28回目	国家試験対策⑥⑦	国家試験合格に向けた練習問題⑪⑫ 国家試験合格に向けた練習問題⑬⑭					
第29回目～第30回目	国家試験対策⑧⑨	国家試験合格に向けた練習問題⑮⑯ 国家試験合格に向けた練習問題⑰⑱					
教科書	化粧品化学 日本理容美容教育センター						
参考書							
評価方法	試験成績、平常成績、出席状況等を総合して得点化して評価基準を基に判断する。						
評価基準	評価基準は、次の通りとする。A:90～100点 B:80～89点 C:70～79点 D:60～69点 E:追 再試験合格者 F:59以下 放棄:0点						

令和7年度 専門課程 シラバス

科目名	文化論	担当者	大塚・千葉	課程名	美容専門課程	学科名	美容科
		単位	2	学年	1、2	分類	必修
		(時間)	60	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
授業の概要	美容に携わるものとして我が国における美容の歴史と文化の形成について考えることを目標とする。また主に、髪型・服装等の支店から日本文化・歴史の理解を深める。						
学習目的	美容師の業務についてから、美容の歴史と文化を役立て、新しい髪型・服装を広げていく。						
学習目標	美容師国家試験の取得は必須であり、美容の歴史と文化を習得し、実務に活かす。						
授 業 計 画							
回	主題	授業内容					
第1回目～第2回目	総論	美容文化の概要					
第3回目～第4回目	日本の美容業の歴史①	理容業・美容業の発生					
第5回目～第6回目	日本の美容業の歴史②	江戸時代の理容業・美容業					
第7回目～第8回目	日本の美容業の歴史③	現代の理容美容・日本髪①					
第9回目～第10回目	日本の美容業の歴史④	日本髪②					
第11回目～第12回目	日本の美容業の歴史⑤	日本髪③					
第13回目～第14回目	日本の美容業の歴史⑥	日本髪④					
第15回目～第16回目	日本の美容業の歴史⑦	日本髪⑤					
第17回目～第18回目	ファッション文化史①	現代Ⅰ～Ⅱ(日本編)					
第19回目～第20回目	ファッション文化史②	現代Ⅲ～Ⅳ(日本編)					
第21回目～第22回目	ファッション文化史③	現代Ⅰ～Ⅲ(西洋編)					
第23回目～第24回目	ファッション文化史④	現代Ⅳ～Ⅶ(西洋編)					
第25回目～第26回目	礼装の種類①	和装の礼装					
第27回目～第28回目	礼装の種類②	洋装の礼装					
第29回目～第30回目	礼装の種類③	まとめ					
教科書	文化論 日本理容美容教育センター						
参考書							
評価方法	試験成績、平常成績、出席状況等を総合して得点化して評価基準を基に判断する。						
評価基準	評価基準は、次の通りとする。A:90～100点 B:80～89点 C:70～79点 D:60～69点 E:追 再試験合格者 F:59以下 放棄:0点						

科目名	美容技術理論	担当者	千葉・戸矢	課程名	美容専門課程	学科名	美容科	
		単位	5	学年	1,2	分類	必修	
		時間 (美容科Ⅱ部)	150	授業方法	講義	実務経験のある 教員科目	○	
授業の概要	I. 実習授業と並行して基礎技術、特殊技術から機械器具の種類・特徴・目的など使用上の注意点を学ぶ。 II. 美容にたずさわる手技、エステ・ネイル・メイク・着付け・色彩・トータル的な基礎を施術と並行して学ぶ。							
学習目的	美容技術と道具、薬剤、化粧品などの関連性について学ぶ。							
学習目標	美容師国家試験の取得は必須であり、美容師に必要な技術、薬剤、化粧品など基礎知識をつける。							
実務経験のある教員科目	美容サロンにおける美容師の実務を9年以上経験した教員が、カット、ヘアーセット、パーマなど技術をするうえで必要となる理論的な知識を習得させるための授業を行う。あわせて、美容師国家試験の内容に基づいて学習し、さらに専門的な美容知識を授業を通して指導する科目である。							
授 業 計 画								
回	主題	授業内容						
第1回	美容技術理論Ⅰ…美容技術理論を学ぶにあたって	美容技術における作業姿勢 人体各部の名称 頭部区分等						
第2回	美容技術理論Ⅰ…美容用具	美容技術における用具類の名称と選定法、手入れ法等						
第3回	美容技術理論Ⅰ…シャンプーング	シャンプー剤の成分、種類、施術時の注意点 リンス、コンディショナー、トリートメントの目的、成分、種類 スキャulptトリートメントの目的、成分、要素及びマッサージ手技						
第4回	美容技術理論Ⅰ…ヘアカットング	基礎理論、ベーシックカット シザーズとレザラーによるカット技法						
第5回	美容技術理論Ⅰ…パーマントウェーピング	理論、毛髪の構造、ウェーブ形成の仕組み、パーマ剤の種類 パーマントウェーブ技術						
第6回	美容技術理論Ⅰ…ヘアセッティング	パーティング、シェーピング、ヘアカーリング、ヘアウェーピング						
第7回	美容技術理論Ⅰ…ヘアセッティング	ブロードライ、アイロンワーク、アップ、ウィッグ、ヘアピース						
第8回	美容技術理論Ⅰ…ヘアカラーリング	ヘアカラーの種類と特徴 染毛のメカニズム 基本、レベルとアンダートーン						色の
第9回	美容技術理論Ⅰ…ヘアカラーリング	ヘアカラーの技術手順						
第10回	美容技術理論Ⅱ…エステティック	皮膚の構造、カウンセリング、マッサージ理論 フェイシャルケア、フェイシャルマッサージ ディケア、ボディマッサージ						ポ
第11回	美容技術理論Ⅱ…ネイル技術	ネイル技術の種類、爪の構造とカット形状、ネイル技術の道具 ネイルケアとアーティフィシャルネイル						
第12回	美容技術理論Ⅱ…メイクアップ	メイクアップの道具、スキンケア ベースメイクアップ、アイメイクアップ、アイブロウメイクアップ、リップメイクアップ						
第13回	美容技術理論Ⅱ…メイクアップ	まつ毛エクステンション						
第14回	美容技術理論Ⅱ…日本髪	日本髪の各部の名称、種類と特徴 装飾品、結髪道具、結髪技術						
第15回	美容技術理論Ⅱ…着付け	礼装、着物の種類、帯、小物 着物の各部の名称 着付けの一般的要領						
教科書	美容技術理論Ⅰ、Ⅱ 日本理容美容教育センター							
参考書								
評価方法	試験成績、平常成績、出席状況等を総合して得点化し、評価基準を基に判断する。							
評価基準	評価基準は、次の通りとする。A:90～100点 B:80～89点 C:70～79点 D:60～69点 E:追 再試験合格者 F:59以下 放棄:0点							

科目名	運営管理	担当者	黒沢	課程名	美容専門課程	学科名	美容科
		単位	1	学年	2	分類	必修
		(時間)	30	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
授業の概要	経営やマネジメントを学び、経営者の考え方や責任・役割等を修得し、顧客満足をどう実現するか等方法を考える						
学習目的	従業員として雇用されることからスタートし、将来経営者として成長していくためのノウハウを具体的に学ぶ						
学習目標	経営を考えていくうえで目標を実現させるために多角的に学習する						
授 業 計 画							
回	主題	授業内容					
第1回	経営とは・経営者とは	継続企業の原則、変化、競争、成果、利益等について					
第2回	経営資源と経営戦略	経営資源、経営計画、戦略の視点、経営者の視点					
第3回	美容業の経営	美容業界の現状、競争の方向性の変化、サービスとしての美容					
第4回	資金管理	資金管理の重要性、会計の活用、収支、損益、コスト管理、税金					
第5回	人という資源	採用、トレーニングと資格制度、やる気、給与、待遇・福利厚生、労働者の権利等					
第6回	健康・安全な労働環境	健康管理、健康課題、作業環境に関する健康問題					
第7回	従業員としての視点から	社会人としての責任、社会保険について詳しく学ぶ					
第8回	キャリアプラン	準備、キャリアプランのメリット、自己管理、将来設計					
第9回	サービスデザイン	価値の構造、価値を実現するシステム、顧客満足					
第10回	価値の多様性	人の役割、目立つ価値、実現すべき価値の多種多様性、サービスの範囲					
第11回	マーケティング	マーケティング・ミックスの要因(短期的と長期的要因)					
第12回	サービスのシステム化	システムとして動く、価値の保持、リーダーの役割					
第13回	接客	良い接客、計画と準備、接客力を高める					
第14回	接客の実践	店内環境、受付、要望、提案、質問、説明、調整					
第15回	接客の実践	謝罪、フォローアップ、クレーム、事故、対策、対処					
教科書	運営管理 日本理容美容教育センター						
参考書							
評価方法	試験成績、平常成績、出席状況等を総合して得点化して評価基準を基に判断する。						
評価基準	評価基準は、次の通りとする。A:90～100点 B:80～89点 C:70～79点 D:60～69点 E:追 再試験合格者 F:59以下 放棄:0点						

科目名	美容実習	担当者	千葉・戸矢	課程名	美容専門課程	学科名	美容科
		単位	30	学年	1,2	分類	必須
		(時間)	900	授業方法	講義、実習	実務経験のある教員科目	○
授業の概要	美容の実技科目として、美容国家試験の実技科目や、美容理論に沿っての美容技術の実践を行う						
学習目的	美容師国家資格を得るうえで修得しておくべき技術を学び、美容技術の基本的技術を修得する						
学習目標	美容師国家試験の合格と美容の基礎技術と基礎知識を身につける						
実務経験のある教員科目	美容サロンにおける美容師の実務を9年以上経験した教員が、カット、ヘアセット、パーマなど技術を取り入れ授業を行う。その実務経験を活かして教員が、美容師国家試験の内容に基づいて、学習する授業を行い、職場で必要になる知識・技術を修得させるために実践授業を通して指導する科目である。						
授 業 計 画							
回	主題	授業内容					
第1回	美容用具の名称と取り扱い、作業姿勢、実習授業に対する心構え等	美容用具の名称を覚え、扱い方を習得する。また、施術の際常に正しい姿勢を保ち、正確な技術が修得できるようにする。授業の準備や片付け等手際よく行う。					
第2回	ワインディングの基礎技術と理論	ワインディングの基礎技術として、ブロッキングを正確に取り、オールパーパスから巻き始め、全てのロッドがオンベースで巻き収められることを習得する。					
第3回	国家試験の第2課題(ワインディング)	国家試験第2課題のワインディングの構成とオンベース・オフベースの角度の感覚を習得する。					
第4回	オールウェーブの基礎技術と理論	オールウェーブの基礎技術として、ローションワーク、コームの扱い方から始め、フィンガーウェーブと4種類のカールの作り方を習得する。					
第5回	国家試験の第2課題(オールウェーブ)	国家試験第2課題のオールウェーブの構成を覚え、フィンガーウェーブやカールを正確に作れるように繰り返しの授業を行う。					
第6回	国家試験の第2課題(オールウェーブ)	国家試験第2課題のオールウェーブの構成を覚え、フィンガーウェーブやカールを正確に作れるように繰り返しの授業を行う。					
第7回	国家試験の第2課題(ワインディング)	国家試験第1課題のワインディングの技術を制限時間内に仕上げ、細部まで確認しながら完成度を上げる。					
第8回	国家試験の第2課題(オールウェーブ)	国家試験第2課題のオールウェーブの技術を制限時間内に仕上げ、細部まで確認しながら完成度を上げる。					
第9回	カットの基礎技術と理論	カットの基礎技術として、シザーズの扱い方や正しいカット技法、正しい姿勢等を学び、国家試験第2課題のカットの展開図を理解する。					
第10回	国家試験第1課題(カット)	国家試験第2課題のカットの手順に沿って、全頭を一通りカットできるように学ぶ。また、カットのオンベースを確実に理解する。					
第11回	国家試験第1課題(カット)	国家試験第2課題のカットが制限時間内にスムーズに切れるようになることを目標にする。					
第12回	衛生技術に対する基礎知識と実践	国家試験の衛生試験の減点ポイントや、衛生の必要性を理解する。また、施術とともに実践しながら習得する。					
第13回	美容師国家試験対応授業	美容師国家試験の準備から、第1課題、第2課題、衛生管理までの流れを、実技とともに習得する。					
第14回	美容師国家試験対応授業(第1課題、第2課題、衛生実技)	美容師国家試験の全ての課題を合格レベルまで完成させる。					
第15回	美容師国家試験対応授業(第1課題、第2課題、衛生実技)	美容師国家試験の全ての課題を合格レベルまで完成させる。					
教科書	美容技術理論Ⅰ 日本理容美容教育センター						
参考書	美容実習 日本理容美容教育センター						
評価方法	試験成績、平常の成績、出席状況等を総合して得点化し評価基準を基に判断する。						
評価基準	評価基準は、次の通りとする。A:90～100点 B:80～89点 C:70～79点 D:60～69点 E:追 再試験合格者 F:59以下 放棄:0点						

科目名	外国語	担当者	菅澤	課程名	美容専門課程	学科名	美容科
		単位	2	学年	1,2	分類	選択
		(時間)	60	授業方法	講義、実習	実務経験のある教員科目	
授業の概要	卒業後に社会に出た際の適応力等職業教育の観点から英会話を習得できるように授業を進める。						
学習目的	コミュニケーションを意識し、外国人とも会話ができるように基礎的なスピーキングを習得する。						
学習目標	基本的な英単語、熟語、フレーズを教科書を中心にして、歌や音読、パズル等を利用して習得する。						
授 業 計 画							
回	主題	授業内容					
第1回	Let me introduce myself	自己紹介、好きなこと、嫌いなこと					
第2回	Nice to meet you,too	挨拶、英語の時制、時間の表現方法					
第3回	Welcome to Sunny's Hair Salon	お客様を迎える、丁寧な表現方法					
第4回	Thank you for calling	電話での接待、電話に必要な英単語					
第5回	Would you like a new hairstyle?	コンサルテーション、髪質の表現					
第6回	Is the temperature all right?	シャンプー&トリートメント、英語の発音					
第7回	Summary	まとめ スピーキングテスト 1					
第8回	Can I cut about two inches off?	ヘアカット、カットの技術の英語、					
第9回	Have you had a perm before?	パーマ、現在完了形					
第10回	How would you like it colored?	ヘアカラー、色彩の表現					
第11回	I hope you like it	仕上げ、長さや温度、英語での褒め方					
第12回	Here is your new member's card	お会計、、お金、チップの基本					
第13回	I am sorry for the inconvenience	クレーム対応、混乱を避ける、英語での謝罪方法					
第14回	It is an inspiring experience!	海外研修、街での英会話					
第15回	summary	まとめ スピーキングテスト 2					
教科書	外国語 日本理容美容教育センター						
参考書							
評価方法	試験成績、平常成績、出席状況等を総合して得点化して評価基準を基に判断する。						
評価基準	評価基準は、次の通りとする。A:90～100点 B:80～89点 C:70～79点 D:60～69点 E:追 再試験合格者 F:59以下 放棄:0点						

科目名	コミュニケーション	担当者	黒澤・佐々木	課程名	美容専門課程	学科名	美容科
		単位	3	学年	1,2	分類	選択
		(時間)	90	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
授業の概要	相手の興味・関心・心理をつかむ聴き方、話し方、話題など総合的に学ぶ						
学習目的	コミュニケーション能力の育成を目的とする						
学習目標	美容師として、コミュニケーション能力を高め、プロとしての話術をレベルアップする						
授 業 計 画							
回	主題	授業内容					
第1回	コミュニケーション上手になるために	コミュニケーションの基本 挨拶					
第2回	～になる(自分の世界を広げてみる)	ファシリテーターになる 話を聞いてもらえる人になる アプローチアブルな人になる					
第3回	実践チャレンジ①	お互いのよいところを指摘しあう 挨拶で自分の印象をつくってみる					
第4回	自分を知る	自分の強み、魅力は？ 印象のコントロール 自己紹介					
第5回	聞く技術	相手の話を正確に聞く 相手の話を整理する 相手にたくさん話してもらい、上手に質問をする					
第6回	伝える技術①・プレゼンテーション基礎	プレゼンテーションの目的(ゴール)を明確にする 相手を知ることから					
第7回	伝える技術②・プレゼンテーションステップアップ	話のボリューム 話の順序 ボトルネックを取り除く					
第8回	場面別にプレゼンテーションを設計する	説明のプレゼンテーション 実践チャレンジ②					
第9回	場面別にプレゼンテーションを設計する	報告のプレゼンテーション 依頼のプレゼンテーション					
第10回	面接のコミュニケーション	自分軸と相手軸 面接力の向上 面接成功のポイント					
第11回	接客のコミュニケーション	接客力の向上 上手の接客のポイント					
第12回	心理学を活かしたコミュニケーション	交流分析で自分を知る 人間の3つの自我状態					
第13回	心理学を活かしたコミュニケーション	エコグラム 間違ったストローク					
第14回	実践チャレンジ③	インタビューをしてみる 説明、報告、依頼をしてみる					
第15回	実践チャレンジ④	面接シュミレーション 間違ったコミュニケーションを正す					
教科書	日本能率協会マネジメントセンター コミュニケーション基本テキスト						
参考書							
評価方法	試験成績、平常成績、出席状況等を総合して得点化して評価基準を基に判断する。						
評価基準	評価基準は、次の通りとする。A:90～100点 B:80～89点 C:70～79点 D:60～69点 E:追 再試験合格者 F:59以下 放棄:0点						

科目名	美容接客	担当者	千葉・戸矢	課程名	美容専門課程	学科名	美容科
		単位	2	学年	1,2	分類	選択
		(時間)	60	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
授業の概要	美容師としての接客マナーや笑顔での対応、敬語の使い方など、総合的な会話を学ぶ。						
学習目的	美容師として、正しい言葉遣いや接客について学ぶ。						
学習目標	美容師として接客のプロを目指す。						
授 業 計 画							
回	主題	授業内容					
第1回	第一印象が決めて	差が付く接客の基本					
第2回	居心地のよい空間づくり	接客ハート					
第3回	売り上げがアップする	好印象な販売メソッド					
第4回	お客様の心をつかむために必要な観察力	お客様の視線の先を見る 気づいていますよのサインは出来るだけ早く					
第5回	信頼性を高める	商品知識					
第6回	見落としがちなお店の雰囲気づくり	他のスタッフへの態度 掃除の確認					
第7回	売り場での「困った」に対処	お店のルール 相談する クレーム					
第8回	また来たくなる接客サービス	基本的のことのレベルを上げる 一方的でなく双方向					
第9回	実践トレーニング	会話 複数接客 会計時、お見送り					
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
第15回							
教科書	同文館出版 接客(基本と実践)						
参考書							
評価方法	試験成績、平常成績、出席状況等を総合して得点化して評価基準を基に判断する。						
評価基準	評価基準は、次の通りとする。A:90～100点 B:80～89点 C:70～79点 D:60～69点 E:追 再試験合格者 F:59以下 放棄:0点						

科目名	ビジネスマナー	担当者	千葉・戸矢	課程名	美容専門課程	学科名	美容科
		単位	2	学年	1,2	分類	選択
		(時間)	60	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
授業の概要	社会人としての基本、正しい動作、挨拶、言葉遣い、接客の基礎を学ぶ。						
学習目的	美容師として、正しい動作や言葉遣いについて学び、接客などを学ぶ。						
学習目標	社会人としての心構えや基本的なルールやマナー、また一般常識について学び、理解する。						
授 業 計 画							
回	主題	授業内容					
第1回	社会人としての基本	職場での基本モラル 職場での身だしなみ 職場での人間関係					
第2回	正しい動作	挨拶 基本動作					
第3回	実践トレーニング	呼ぶ、呼ばれる態度 言葉の受け取り 言われる前に率先 声出し・7大接客用語 ものの受け渡し、扱い ものの示し方					
第4回	言葉づかい	話し方、聞き方 敬語 人の呼び方					
第5回	実践トレーニング	相手別会話法 社内のコミュニケーション ミーティングや会議					
第6回	接客の基礎	接遇 接客対応					
第7回	実践トレーニング	お客様の対応例 訪問客に対応する					
第8回	電話対応の基礎	電話の受け方 電話のかけ方					
第9回	実践トレーニング	予約を受ける アクセスのご案内、各種問い合わせ 電話の注意事項					
第10回	一般常識、各種マナー	名刺交換 紹介					
第11回	実践トレーニング	名刺交換の一連の流れ 紹介の一連の流れ					
第12回	訪問、座席の順番	ビジネス訪問 座席、立ち位置の順番					
第13回	実践トレーニング	アポイントの取り方 応接室、列車、乗用車、タクシー、エレベーター等での位置					
第14回	冠婚葬祭	結婚披露宴 葬儀					
第15回		面接シュミレーション 間違ったコミュニケーションを正す					
教科書	日本理容美容教育センター ビジネスマナー						
参考書							
評価方法	試験成績、平常成績、出席状況等を総合して得点化して評価基準を基に判断する。						
評価基準	評価基準は、次の通りとする。A:90～100点 B:80～89点 C:70～79点 D:60～69点 E:追 再試験合格者 F:59以下 放棄:0点						

科目名	美容演習	担当者	田嶋・南	課程名	美容専門課程	学科名	美容科
		単位	3	学年	1,2	分類	選択
		時間 (美容科Ⅱ部)	90	授業方法	講義、実習	実務経験のある教員科目	○
授業の概要	ネイルアーティストとして必要な知識・技術を基礎から学び、ジェルネイルを中心にベーシックなサロンワークに対応できる技術を修得する						
学習目的	どんなニーズにも対応できるように、多角的な知識を身につける						
学習目標	TBMディプロマ INFA国際ネイル試験						
実務経験のある教員科目	ネイル検定1級以上の資格を持ち、ネイルサロンの経営や、各講習会等の講師をしている教員が、ネイルの基礎技術からネイルアートまでを指導する科目である						
授 業 計 画							
回	主題	授業内容					
第1回	教材の名称と確認。概論①②と実技①	概論①爪の構造 概論②技靴体系 実技①セッティング/形 デモンストレーション					
第2回	概論③と実技①②③④	概論③歴史/病気 実技①セッティング/形 実技②クリーンナップ 実技③ポリッシュ 実技④アート					
第3回	概論④と実技④	概論④衛生管理 実技④アート タイムトライアル、特別アートレッスン(チップ提出)					
第4回	筆記テスト、実技テスト	概論①～④までの確認テスト JNEC(3級検定)					
第5回	gel	gel 座学とデモンストレーション プリント①、②、③/3級gel技術 プリント提出					
第6回	gel	gel 座学と実技 プリント④/3級gel技術 JNEC(2級、3級検定) プリント提出					
第7回	gel	gel 座学と実技 プリント④/3級gel技術 プリント提出					
第8回	筆記テスト、実技テスト	gel座学の確認テスト 特別アートレッスン(チップ提出)					
第9回	gel(アート)	gel 座学と実技 プリント④/3級gel技術 プリント提出 アート制作					
第10回	gel(アート)	アート制作とプリント提出					
第11回	筆記テスト、実技テスト	プリント①、②、③、④の総合テスト アート制作(作品提出)					
第12回	まつ毛エクステンション	まつ毛エクステンションにおける衛生及び保健					
第13回	まつ毛エクステンション	まつ毛エクステンションの道具と取扱い					
第14回	まつ毛エクステンション	まつ毛エクステンションにおけるカウンセリング					
第15回	まつ毛エクステンション	まつ毛エクステンションの装着技術					
教科書	日本理容美容教育センター美容技術理論②、まつ毛エクステンション						
参考書							
評価方法	試験成績、平常成績、出席状況等を総合して得点化して評価基準を基に判断する。						
評価基準	評価基準は、次の通りとする。A:90～100点 B:80～89点 C:70～79点 D:60～69点 E:追 再試験合格者 F:59以下 放棄:0点						

科目名	メイクアップ	担当者	鏡宮・小澤	課程名	美容専門課程	学科名	美容科
		単位	2	学年	1,2	分類	選択
		(時間)	60	授業方法	講義、実習	実務経験のある教員科目	○
授業の概要	容姿を美しくするという美容の定義についてメイクアップは欠かせないものである。美容師として形態学、色彩心理学、実験心理学等を学びながらサロンワーク・スタジオワークを修得していく						
学習目的	どんなニーズにも適応できるように、多角的な知識を身につける						
学習目標	美容のプロとして要求されるメイクアップの技術を修得する						
実務経験のある教員科目	美容サロンにおける美容師の実務を9年以上経験した教員が、カット、ヘアーセット、パーマなど技術を取り入れ授業を行う。その実務経験を活かして教員が、美容師国家試験の内容に基づいて、学習する授業を行い、職場で必要になる知識・技術を修得させるために実践授業を通して指導する科目である。						
授 業 計 画							
回	主題	授業内容					
第1回	顔の形態学的な観察	顔のプロポーションや骨格、筋肉等を知り、光と陰による立体感を考える					
第2回	メイクアップと色彩	色の三属性、マンセル表色系の分類					
第3回	皮膚の生理と構造	表皮・真皮・皮下組織・付属器官について					
第4回	スキンケア	クレンジングからプロテクティングまでの基本スキンケアの実践					
第5回	ベースメイクアップ	ファンデーションの種類と塗り方のテクニック					
第6回	ベースメイクアップ	スポンジワークとハイライト・ローライト					
第7回	アイメイクアップ	アイライン・アイシャドウ・アイラッシュカール・マスカラのテクニック					
第8回	アイブロウメイクアップ	眉の整え方、ドローイング・シェーディングのテクニック					
第9回	リップメイクアップ	美しい唇の描き方のテクニック					
第10回	ブラッシュオン	血色の見方、ハイライト・ローライト・チークルージュ					
第11回	ナチュラルメイク	ナチュラルメイクの実践					
第12回	クールメイク	クールメイクの実践					
第13回	グラマラスメイク	グラマラスメイクの実践					
第14回	スタジオメイク	傷メイクの作り方と実践					
第15回	スタジオメイク	ステージメイクの実践					
教科書							
参考書							
評価方法	試験成績、平常成績、出席状況等を総合して得点化して評価基準を基に判断する。						
評価基準	評価基準は、次の通りとする。A:90～100点 B:80～89点 C:70～79点 D:60～69点 E:追 再試験合格者 F:59以下 放棄:0点						

科目名	美容モード理論	担当者	大塚	課程名	美容専門課程	学科名	美容科
		単位	2	学年	1,2	分類	選択
		(時間)	60	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
授業の概要	ヘアスタイルの流行を学び、流行で変化するモードの理論と技術を学ぶ。						
学習目的	ファッション、色彩、デザインのルーツを学び知識を習得する。						
学習目標	4シーズン別のカラーイメージ。ファッションを総合的に理解し、プロを目指す。						
授 業 計 画							
回	主題	授業内容					
第1回	ファッションの定義	ファッションの概念 商品と製品 ファッションの条件					
第2回	アートとサイエンス	新しい職業教育の概念 デザインとマーケティング マスファッションとハイファッション					
第3回	モードのプロセス	情報収集と整理 流行の種類 モードとコア					
第4回	ファッションクラスター	クラスター分類の基本 タイプ別クラスター マトリックス分析					
第5回	クラスターとファッションテーマ	ファッションイメージ別クラスター クラスターマップの作成					
第6回	ブランド化の条件	クラスターの絞り込み 商品化計画					
第7回	ブランド化の条件	スタイルの分析 ヘアデザインにおけるポイントの意味 ポイントマップの作り方					
第8回	ファッションディレクション	確信と確認の相違 定点観測と傾向分析 アドバンスの構成					
第9回	フューチャーマーケティング	トレンド情報とスタイリングオフィス 時代的背景とトレンドの必要性 トレンドのよみ方					
第10回	トレンドの解読法	トレンド製作の基礎知識 トレンドの活用 正しい発想とものづくり					
第11回	ヘアデザイナーの自己啓発法	情報収集と利用 コンセプトワーク デザインワーク					
第12回							
第13回							
第14回							
第15回							
教科書	日本理容美容教育センター モード理論						
参考書							
評価方法	試験成績、平常成績、出席状況等を総合して得点化して評価基準を基に判断する。						
評価基準	評価基準は、次の通りとする。A:90～100点 B:80～89点 C:70～79点 D:60～69点 E:追 再試験合格者 F:59以下 放棄:0点						

科目名	総合技術	担当者	八本、島崎	課程名	美容専門課程	学科名	美容科
		単位	4	学年	1,2	分類	選択
		時間 (美容科Ⅱ部)	120 (90)	授業方法	講義、実習	実務経験のある教員科目	○
授業の概要	総合的な美容の実践科目として、受付、カウンセリング、接客、マナー、等のロールプレイングから、美容技術の実践を行う						
学習目的	美容業の実務に係るうえで修得しておくべき技術を学び、実践時にはいち早く戦力として応用できるようにする						
学習目標	美容師になってからの教育カリキュラムの一連の業務の基礎技術と基礎知識をつける						
実務経験のある教員科目	美容サロンにおける美容師の実務を9年以上経験した教員が、カット、ヘアーセット、パーマなど技術を取り入れ授業を行う。その実務経験を活かして教員が、美容師国家試験の内容に基づいて、学習する授業を行い、職場で必要になる知識・技術を修得させるために実践授業を通して指導する科目である。						
授 業 計 画							
回	主題	授業内容					
第1回	受付	お客様が来店されてから待合までのご案内のロールプレイング					
第2回	カウンセリング	施術に入る前の細やかなカウンセリング技術					
第3回	接客	電話対応から言葉づかい、立ち居振る舞い等					
第4回	シャンプー実習	サイドシャンプーからバックシャンプーまでの技術と、スキャルプマッサージ技法					
第5回	トリートメント	トリートメントの各種技法					
第6回	パーマ	相モデルでの実践、パーマでのデザイン作り					
第7回	カラー	ブリーチの技法、トーンアップとトーンダウン、カラーチェンジ					
第8回	ブロー	ブローテクニック(ショートナチュラル・ロング)					
第9回	アップ	各種アップテクニック、日本髪、編み込み技術					
第10回	カット	ベーシックカット (ワンレングス)、(グラデーション)					
第11回	カット	ベーシックカット (レイヤー)、(セイムレングス)					
第12回	カット	デザインカット、メンズカット					
第13回	アイロンワーク	ストレートアイロン、ロールアイロンのテクニック					
第14回	エステティック	ハンドマッサージ、フェイスマッサージ技法					
第15回	着付け	補正、留袖、飾帯の作り方					
教科書							
参考書	店長とスタッフのための「接客」基本と実践(同文館) シャンプー実習室 教具一式						
評価方法	試験成績、平常の成績、出席状況等を総合して得点化し評価基準を基に判断する。						
評価基準	評価基準は、次の通りとする。A:90～100点 B:80～89点 C:70～79点 D:60～69点 E:追 再試験合格者 F:59以下 放棄:0点						